

お知らせ

イベント

G・B Pop Jazz オーケストラ 第3回クリスマスコンサート

本誌「団体紹介」にてご紹介した「G・B Pop Jazzオーケストラ」では、イオンスーパーセンター一関店(フードコート)でクリスマスコンサートを開催します。
一足早いクリスマスのひと時、クリスマスソング(ホワイトクリスマス、そりすべり等)のほか、誰もが聞いたことのあるジャズ曲(真珠の首飾り、ムーンライトセレナーデ等)の十数曲で会場を盛り上げます。詳しくは下記まで。
日時:2022年12月17日(土)
15時～16時30分
会場:イオンスーパーセンター一関店
フードコート内特設会場
(一関市狐禅寺石ノ瀬11-1)
料金:観覧無料(自由観覧)
問合せ:090-7072-3855(事務局・佐藤)

情報

NPO法人グッジョブクラブ 「わくわく体操教室」

「わくわく体操教室」は、「全ては遊びから始まる」という考え方のもと、お友達やパパ・ママと一緒に体を動かしながら、親子の絆を深めます。体操競技でインターハイ優勝経験のある清田博美先生が講師を務め、マット運動や鉄棒、平均台などを使った運動も行います。申込は不要です。
活動日:毎月第1・3土曜日
10時～12時
場所:一関修紅高校 武道館
(一関市東花王町6-1)
対象:幼児～小学6年生まで
料金:1,500円/月(初回体験は無料)
問合せ:090-9749-0929
✉hagita2@r6.dion.ne.jp (萩田)

募集

岩淵麗楽一関後援会 会員募集

「岩淵麗楽一関後援会」は、一関市東山町出身で世界的に活躍するプロスノーボーダー・岩淵麗楽さんを応援しようと平成30年6月に発足した団体です。同会では、麗楽さんを顕彰し、その活躍と一緒に応援してくれる会員を募集しています。入会特典として麗楽さんの写真入り会員カードと名前入りボールペンをプレゼント。詳しくは下記までお問合せください。
年会費:
＜個人会員＞ 1口2,000円
＜法人会員＞ 1口10,000円
問合せ:0191-34-5228
(一関市東山市民センター内たいしたもんだ長坂みらい塾・菊池)

講習

建設業経理検定試験 受験準備講習

両磐地域職業訓練センターでは、「建設業経理士」の資格取得を目指す方に向けた受験準備講習を下記日程で行います。詳しくはお問合せください。
建設業経理事務士(3級):
＜日程＞ 2022年12月7日～12月23日
※上記期間中のいずれか3日間
＜受講料＞ 会員 16,500円
一般 19,800円
建設業経理士(2級):
＜日程＞ 2022年12月8日～
2023年2月17日
※上記期間中のいずれか5日間
＜受講料＞ 会員 27,500円
一般 30,800円
問合せ:0191-52-2879(東磐職業訓練協会)

募集

萩荘黒澤VBC 団員募集

「萩荘黒澤VBC」では、一緒にバレーボールをする仲間を募集しています。小学生であれば、学校や学年は不問。バレーボール経験のある保護者には球出しなどの補助をしてもらい、親子で一緒に活動することができます。見学は自由で、週1回からの参加でもOK! 詳しくは下記まで。
活動日:月・水曜日 16時30分～19時
土曜日 9時～12時
※土日は大会が入ることがあります。
場所:一関市立萩荘小学校 体育館
(一関市萩荘境ノ神253)
問合せ:080-1831-4704 (渡部)
✉hagisho_kurosawa_vbc@yahoo.co.jp

情報

中津谷川イルミネーション

室根町津谷川地区の中津谷川内では、今年も下記日程で「中津谷川イルミネーション同好会」によるイルミネーション点灯行事を実施します。平成22年に地元有志2人で始めたイルミネーションですが、年々参加世帯が増え、今ではその距離約500mに! 趣向を凝らしたイルミネーションの数々をお楽しみください。
点灯期間:2022年11月23日～
2023年1月7日まで
点灯時間:16時30分～21時頃まで
場所:室根町津谷川字本宿周辺
※千厩警察署津谷川駐在所を目指す
問合せ:0191-65-2525
(事務局・佐藤好彦)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。



旧町村別の人口動態等を共有します。

作品名 「社交場は畑のど真ん中」



室根町津谷川字竹野下にある「目下酒店」さん向かいの畑。同店が「地域の人のための休憩場所」として素敵なお休み処を設置しました。普段は黒い手すりの映えるオシャレな空間ですが、10月はカボチャを飾ってハロウィンの仕様に! お散歩ついでに社交場になっています。

2022年11月1日付
(2022年10月31日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体		前月比
人口	110019	-157
世帯数	46431	-40
出生数	27	-14

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	54819	-71	24551	-28
花泉	12186	-18	4706	0
川崎	3294	1	1285	2
千厩	9965	-21	4113	-7
大東	12139	-14	4933	2
東山	5939	-13	2278	-4
室根	4445	-19	1767	-9
藤沢	7232	-2	2798	4

ニュースレター「アイデア」

idea

2022.12

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 一関学院高等学校 通信制課程 教頭 橋野 智弘さん
- 3 | 団体紹介 | G・B Pop Jazz オーケストラ
- 5 | 地域紹介 | 銚子自治会(川崎)
- 7 | 企業紹介 | 株式会社 アーアル研究所(大東)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴㊤「中間支援」は、必要なのか?
- 9 | センターの自由研究 | くらし調査ファイルNo.20「講」「頼母子」

今月の表紙

こちらに「撫でて」と言っているかのような佇まいのお馬さん。蔽美7区にある「富山馬頭観音」の石像です。山形県最上郡最上町富澤にある「富山馬頭観音」から分霊していただいたもので、春は「代参」で山形に行き(現在は郵送祈祷)、秋は山形からお越しいただき、「御精進」と称した御祈禱をいただきます。この「代参」と「御精進」を行うために組織しているのが「講中」。市内各地に今も残る「講中」とは、いったい……?(自由研究)

167 / 110,019

橋野 智弘

一関学院高等学校(学校法人一関学院)通信制課程教頭。平成2年に同校全日制課程の教師として着任(当時は一関商工高等学校)。平成15年の通信制課程の立ち上げに関わり、以後、通信制課程の主任教諭として従事。令和4年度より同課程教頭へ。現在も教壇に立ち続けている。京都府出身、一関市在住。



スクーリングの授業の様子

第101回

一関学院高等学校 通信制課程 教頭 橋野 智弘さん × いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

「単位制通信制高校」という「受け皿」 ～社会とつながり続けるために【前編】～

戦後、就業等により全日制高校に進学できない学生のために制度化された高等学校における定時制・通信制課程。しかし近年は全国的に「働きながら学ぶ」という生徒は減少し、そのニーズは制度発足当初と大きく様変わりしています。ニーズは増える中、県内には公立通信制高校が2校、私立通信制高校が2校(広域通信制高等学校を除く)とわずか4校のみ。そのニーズと現状とは？(2回シリーズの前編)

小野寺 まずは一関学院高等学校(以下、学院)さんの通信制課程について教えてください。

橋野 当校の通信制課程は3つに分かれています。一般コースの中で、土・日曜日に学院敷地内にある校舎(通信制課程専用)に通う生徒たちと、水・金曜日に気仙沼教室に通う生徒たち、そして各学期3日間ずつしかスクーリングのない在宅コースです。今年度は合計で122名が在籍しています。

小野寺 気仙沼にも教室を持つていらっしやったんですね。一関市で通信制課程を設置しているのは学院さんだけですね？

橋野 通信制高校には広域認可と狭域認可の2パターンがあり、広域認可は全国規模で展開している学校で、広域通信制高校のサテライト教室であれば市内にもいくつかあります。狭域認可の場合、学校のある県と隣接する1都道府県の生徒が入学対象

となっており、当校は狭域認可で岩手県と宮城県の生徒を受け入れています。狭域認可の通信制高校は県内に4校のみです。

小野寺 広域認可の通信制高校は増えていますが、本校が地元がないと不安が……。

橋野 当校の場合は、全日制も展開する地元の学校ですし、通信制課程は地域における一つの「受け皿」として平成15年から設置しています。私は全日制の教師として着任し、通信制課程の立ち上げから関わっている生き字引のような立場です(笑)

小野寺 卒業した後も地元の母校に先生がいるというのは安心ですよ。 「受け皿」ということですが、教育の現場だけでなく、地域の中でも「学校に行かず家から出られない子が増えている」という声が増えています。通信制課程に通っている生徒さんたちの中にはそのような子も多いのでしょうか。

橋野 当校の生徒の多くは高校に該当する年齢ですが、入学の背景はかなり多様です。その中でも、全日制からの転校ではなく、中学校で不登校になった子が、ストリートで通信制を選択するというケースが増えてきていますね。

小野寺 高校進学を選択肢の幅が広がってきているということですか？

橋野 そうかもしれません。一昔前は昼間に働いて夜に就学するという生徒が夜間定時制に通うという程度の選択肢でしたが、今は昼間定時制や当校のような通信制がある。定時制は時間が全日制と異なるだけで、基本的には毎日対面での授業があります。定時制の中でも、就労目的でなければ昼間定時制を選択したり、対面での人間関係に抵抗がある場合には当校のような通信制を選択することができま

小野寺 なるほど。3年で卒業できるというのは「単位制」という仕組みだからですね？高

校で単位制というのはイメージがしにくいのですが……。

橋野 高校の卒業に必要な単位は文科省で74単位と定められていて、これは全日制・通信制・定時制に共通します。当校の場合、単位制なので、大学と同様、履修登録をします。必修単位と選択単位があり、1年間の上限30単位の中で組み立てます。

小野寺 全日制課程から転校してきた場合はどうなりますか？

橋野 例えば2年生まで全日制を終えての転校の場合、60単位くらいの持ち込みとなり、残りの14単位を修得すれば良いんです。ただし、全日制の場合、学年の途中での単位認定はありません。

小野寺 年度末を待たずに転校すると、そこまでの履修はなかったことになるということ？

橋野 そうです。不登校のまま年度末まで在籍し、単位の修得が進級判定会議で認められなければ、留年扱いとなり、単位はありません。そうなると同じ年

齢の子たちとの卒業ができなくなりそうです。単位制であれば修得した単位は生きるもので、そういうことはないんですが……。

小野寺 学校生活に馴染めないという子たちにとっては、単位制の方が合っているのかもしれない。

橋野 テストなどの際にも、当校通信制課程の場合、一定時間を過ぎれば、終了した人から退席して良いことにしています。

小野寺 本当に大学のようなですね。どうしても通信制というものにネガティブなイメージを抱きがちですが、こういう仕組みであれば卒業できる子たちが少なからずいると思うので、「単位制の通信制高校」という存在を周知していきたいですね。

橋野 当校通信制の長所の一つに「年齢を問わずに次に出してあげる」とあります。本来、高校含め学校は「学問」の場であり、卒業の有無や年齢よりも学んだ中身が重要なはずなんです。今は就学支援金制度もあり、高校を出るのが普通に

なっていて、かつ、高校の卒業が就職や社会に出るための重要な要素になってしまっています。全日制高校からの場合、3年生は10月、1・2年生は12月までに当校通信制に転校すれば、年齢を問わずに卒業できる可能性があります。

小野寺 例えば夏休み明けから学校に行けなくなってしまうという場合、10月か12月までに通信制に転校すれば、間に合うということですね。親の覚悟や判断のタイミングも重要ですね。

橋野 当校の場合、進学校から転入してきた子もいるので、元々学力が高い子などは、国立大学や難関私立大学に進学しています。時間はたっぷりあるので、予備校に通うなど、進学の準備は充分可能です。総合型選抜や公募制推薦の指導もしています。

小野寺 通信制高校のイメージを我々親世代や地域がリセットすることで、再び社会につながっていく子どもたちが増えるということですね。

※4 高等学校等における教育に係る経済的負担の軽減を図り、もって教育の実質的な機会均等に寄与することを目的に、授業料に充てるための就学支援金を支給するもの。国公私立問わず、高等学校等に通う所得等要件を満たす世帯(年収約910万円未満の世帯)が対象。

※1 「岩手県立杜陵高等学校」「岩手県立杜陵高等学校奥州校(岩手県立水沢商業高校内)」 / ※2 「一関学院高等学校」「盛岡中央高等学校 単位制」
※3 学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる。昭和63年度から定時制・通信制課程において導入され、平成5年度からは全日制課程においても設置が可能に。

団体紹介

G・B Pop Jazz オーケストラ

平均年齢68歳のビッグバンド※。毎週日曜日の15時～17時になのはなプラザ地下のミュージックルームで定例練習を行いつつ、演奏活動を行っている。

※ポピュラー音楽(特にジャズ)におけるバンド形式の一つで、基本はサクソ5人、トロンボーン4人、トランペット4人、ピアノ、ギター、ベース、ドラムの17人編成

TEL:090-7072-3855(事務局:佐藤)

写真:「いちのせき市民フェスタ22」内の特別企画に参加した際の演奏風景(令和4年8月)



演奏して楽しく、聞いても楽しく

昭和の企業はクラブ活動が盛んだった!

昭和45年に操業開始した「東北日本電気(のちのNECプラットフォームズ株式会社。以下、NEC)」。当時は、企業の福利厚生の一環としてクラブ活動など社員の余暇活動を支援する企業も多く、NECでも様々なクラブ活動が行われていました。

その一つが「軽音楽同好会」。「上司にあたる人もメンバーにいましたが、クラブ活動ではみんな仲間として音楽を愉しんで来ました」と振り返るのは、昭和46年に高卒第1期生として入社し、「軽音楽同好会」に入会した佐藤廣治さんです。

年頭式や運動会などの社内行事のほか、福祉作業所や高齢者施設等の慰問活動などでも演奏をしていた佐藤さんたちですが、特に名称を持たずにビッグバンド活動をしていたため、メンバーから「慰問活動等をしていく中で、バンド名称がないのはいかななもの

G・B Pop Jazz オーケストラ

か?」という話が。そこで、昭和50年代後半、当時NECが提唱していた「グリーンコミュニケーション活動(環境に配慮した活動)」から「NECグリーンバンド(略称GB)」と命名。現在の団体名称へとつながっています。

誰もが音楽を楽しめるバンドへ

佐藤さんから遅れること約15年、現代表の村上仁さんが入会。吹奏楽の経験があり、行動力もあることからリーダーに抜擢されます。

しかし、その頃(平成初頭)には企業の福利厚生を利用した余暇活動よりも個人的な繋がりを好む世代が増え、当初は17人編成が組めていた同会ですが、メンバーが10人ほどに減少し、継続が難しい状況に……。

「ビッグバンドは17人編成が基本なので、人数が足りないというだけでも演奏の魅力に欠けてしまうんですよ」と振り返る村上さん。

定期演奏会を文化センター大ホールで開催するように。

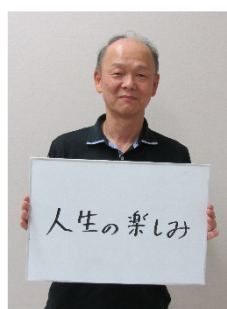
そうした活動が評価され、平成12年、広島県で開催された「第15回国民文化祭」に「ビッグバンドJAZZ」の枠で出場することが決定(岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課からの推薦)! 出場を機にバンド名を「G・B Pop Jazz オーケストラ」に変更し、全国から集まった千人近くの観客を前に5曲を披露してきました。

企業の同好会活動を経て、社会人ビッグバンドとして成長してきた同会は、現在平均年齢が68歳。国民文化祭で共に演奏した仲間の多くは引退し、当時を知るメンバーは7人。その多くが70代に突入しました。

「我らのモットーは『演奏して楽しく、聞いても楽しく』。我々演奏者はもちろん、聞いてくれる方々が音楽で懐かしんだり、リズムをとったり楽しんでくれることが一番だね。バンドは人がいないと成り立たない、みんなで気持ちよく集まって活動を続けられれば」と笑顔を見せる村上さん。現在は地域イベント等と呼ばれて演奏する機会が多く、「NEC時代の同僚などからの紹介や、バンドメンバーとイベント主催者との良い関係があつてのこと」と続けます。

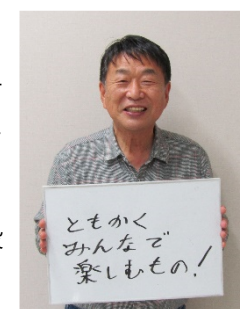
Q.あなたにとってジャズ音楽とは?

代表



A. 人生の楽しみ

事務局(自称)



A. ともかくみんなで楽しむもの!

むらかみ ひとし
村上仁さん
ビッグバンドのダイナミックサウンドをこよなく愛す村上さんは、IBLへの加入を行うなど、団体飛躍の立役者です。

さとう ひろじ
佐藤廣治さん
「ハーモニーが決まった時は最高の気分です」という佐藤さんは各種連絡調整を細かく担当。軽音楽同好会から数えると活動歴約50年!

「夢は定禅寺!もう一度出場することを目標に頑張りましょうよ!」と会長に檄を飛ばす佐藤さん。13人の会員プラス助っ人奏者の応援をもらいながら、ビッグバンドスタイルを貫き続けます。

- Photo

gallery -



地域イベントでの演奏
レパートリーは400曲以上。イベントに合わせ、ジャズだけではなく、歌謡曲や子どもたちが知っている曲にも対応します。



国民文化祭にて
カナダ出身の英会話の先生がボーカルで加入するなど、演奏力の高かった全盛期。岩手県代表で演奏してきました。



いつかまたここで!
平成6年から10年参加した「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」。ジャズ奏者には有名な舞台であり同会の目標です。



由来を語り継ぐ譜面台
NEC時代から使っている思い出のつまった譜面台。「G・B」と刻まれた特注品で、現在の名称にも繋がりががあります。

地域紹介

銚子自治会(門崎)

県道168号薄衣舞川線沿いに位置(東はJR陸中門崎駅手前まで)し、行政区は「銚子」。61世帯200人が暮らす。総務部、産業部、教育文化部、社会環境部、青年部、女性部、睦会部で構成。



左の写真:「地域防災マップ」を作成したときの様子(平成30年)

自治会で売電!「安心」を生み出すために

交流人口の多い集落だからこそ

1056年、前九年の役で、安倍貞任が朝廷軍源頼義を迎え撃つため、兵を構えたのが「河崎の柵」。そんな歴史的な場所を擁するのが銚子自治会です。

北上川の流域に位置する同自治会エリアでは、例年9月に開催される「北上川流域交流Eポート大会(同実行委員会主催)」など、各種イベントが開催されるため、積極的に連携してきました。

その一つが「自治会盆踊り大会」。毎年8月15日に開催することになっていますが、これは翌日に開催される「かわさき夏まつり『おらが自慢のでっかい花火』(同実行委員会主催)」に合わせて帰省する同自治会出身者にも参加してもらうため。帰省者との交流ができる場として、30年以上企画・運営してきました。

各部会が協力して組む櫓を囲んで行われる盆踊りは仮装形式。仮装しての参加は約20人程、全体で

銚子自治会

川崎

は100人程が楽しめます。

また、盆踊りに用いる曲は同自治会出身者が作詞作曲した「銚子音頭」。振り付けも同様に同自治会出身者が行ったもので、長年地域住民に愛されています。

前述の「北上川流域交流Eポート大会」にも初年度(平成7年)から参加し続けている同自治会。毎年、若手チーム「河崎の柵」と、年長チーム「お銚子クラブ」の2チームで出場しており、決勝戦に残ることも多々!大会後には女性部が作る豚汁を食べながら来年度の作戦会議を含めた反省会を実施し、絆を深めています。

自治会長の鈴木義広さんは「地域にある人材・ものを活用し、地域の歴史や資源を後世に残していくことが今いる人たちの役割」と、語ります。

既存団体・組織との連携でやりがいと生きがい

部会制をとっている同自治会ですが、花壇整備などを担っている

識しているのだとか。

鈴木さんは「常日頃から誰とでも交流できる場を作ることが大切」と語り、「その交流が、住んでいる人の生きがいにもつながれば」と笑顔を見せます。

「安心」と「財源」を確保する仕組み

少子高齢化により、自治会の活動財源確保が難しくなる中、同自治会ではお金を生み出す仕組みとして、令和元年9月に太陽光パネルを設置し、売電を始めました。

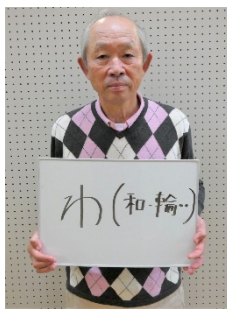
設置にあたっては、地域住民からの「設置してどうなるのか」という疑問の声も多数。「丁寧に説明することを心掛けた」という鈴木さんは、財源確保という視点だけでなく、災害時の電源確保という視点も訴えました。

東日本大震災の停電時には発電機を使用しましたが、不便な点も。自治会館(銚子研修センター)を避難場所とし、電気が建物から直接とれるようにすることで、災害時の安全安心につなげるという狙いもあったことから、約1年間説明の機会を持ち続けました。

自治会館への設置を目指すため、パネルを設置する具体的な場所や方向などは、念入りに検討を重ねました。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長

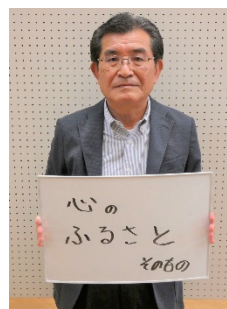


A. わ(和)輪

すずき よしひろ
鈴木義広さん

4期8年目。地域住民の声に積極的に耳を傾けてきた鈴木さんは、「農事組合法人門崎ファーム」の総務部長(3年目)としても活躍しています。

副会長兼総務部長



A. 心のふるさと そのもの

すずき としゆき
鈴木利幸さん

1期2年目。若い頃は青年部に携わっていたものの、20年前から単身赴任生活に……。地元に戻ってきたと同時に副会長に抜擢され、現在に至ります。

「業者ですら知らない補助制度なども調べ、誰よりも詳しくなった」と当時を振り返る鈴木さん。地域をより良くしたいという一心で取り組み、自治会館の屋根に設置された計20枚のパネルは、「安心」を生み出すべく、今日も輝いています。

- Photo



「河崎の柵」「お銚子クラブ」ともに優勝経験あり!終わった後の慰労会を楽しみに、オールを精一杯漕ぎ続けます(笑)

Eポート大会



歴史を語り継ぐために「河崎の柵」について説明する看板やその周辺を管理している同自治会。花壇も整備し、景観保全に努めています。

gallery -



太陽光発電で安心を災害時も意識して導入した太陽光発電。毎月の発電量はモニターで確認できるほか、年末に売電量を住民に報告しています。



多世代が集まる交流の場、地元の人が集まる場として、銚子研修センター(自治会館)前で開催。写真は平成29年の様子。

自治会盆踊り大会

自動化分野(運転補助用車載カメラ、ロボット用カメラ、画像判別用カメラ)、映像分野(写真・動画用交換レンズ、テレビカメラ、プロジェクター)、医療・測定分野(顕微鏡、内視鏡、画像測定装置・分析機)の3分野において、各種製品のキーパーツである光学レンズを製造。大東町渋民地区に本社工場を置き、平成15年にはベトナムのハノイに海外工場を新設、香港には日本とベトナムの拠点サポート事務所(受発注、資材調達機関)を構えています。本社従業員は70名(海外派遣従業員、パート含め)で、男女比は同等。入社時には「DiSC理論(行動特性のバランスで人の動機や欲求、その結果表れる行動を分析)」を用いた分析を行い、個々の適性を活かした職場環境づくりに努めています。

社名に「研究所」。大東町渋民から世界へ

光学レンズを使用する双眼鏡など、時に軍も使用し、戦争で使われてきたという側面もある光学機器。日本においては第二次世界大戦中、貿易ルートの途絶により、海外からの高精度な光学機器が入手困難となったため、国内での製造が急務に。以後、光学レンズなど国産光学機器の開発・製造が盛んになります。

昭和19年、現代表取締役社長小川晃弘さん(平成19年就任)の祖父も、地元静岡県で軍の指示をきっかけに備品用途のレンズ製造を担うべく工場を創業することに。戦後は工場の設備を活かし、一般向けのカメラや双眼鏡などのレンズ製造工場へと移行しました(現在は閉鎖)。

この工場で後継者として従事し、のちに株式会社アーアル研究所を創業する娘婿の小川幸一さん(現取締役会長)は、当時の町工場の体質や体制が、レンズ加工技術の発展にはそぐわないと感じ、独立を決意。より合理的にレンズが量産できるよう、当時出稼ぎが多かった北東北3県に着目し、交渉を進めました。

当時まだ30代だった幸一さんの交渉に耳を傾ける地域が少ない中、真

光学レンズも人材教育も常に進化

剣に耳を傾け、土地の紹介までしてくれたのが旧大東町。昭和49年に設立登記、昭和52年に同町渋民にて工場が操業開始しました。

「コソコソと忍耐強く仕事に向き合える地域性を活かし、出稼ぎに行かずとも地元で技術と収入を得られるような場を提供したかった」と、父・幸一さんがここ渋民を選んだ理由を晃弘さんは振り返ります。

10代〜60代までの男女が働き地域貢献も惜しまない

「地域と共存する職場づくり」を推進する同社では、社員有志で地域の神社などの清掃活動を行うほか、平成30年には、同社が製造したレンズを用いた児童向けの工作品「厚紙で作る望遠鏡(太陽系の惑星が見れる本格派)」を大東町内の小学校へ寄贈。児童たちが地元の製造業への関心を高める機会を創出しました。

コロナ禍には、同社が製作したアクリル仕切りパネルを地元飲食店へ



- 1 代表取締役社長(二代目)小川晃弘さん。
- 2 同社が手掛ける光学レンズの数々。社員の研修も欠かしません。
- 3 本社外観。工場敷地内には福利厚生用の施設も複数完備。

DATA

〒029-0521
一関市大東町渋民字田中1番地
TEL 0191-75-3501
FAX 0191-75-3288
HP <http://www.rtechnical.co.jp/>

無償提供。そのほか「50年もの間お世話になっている渋民に感謝し、地域ならではの文化を守るお手伝いをしたい」と、地元八幡神社の奉納のぼり旗を新調したり、地元保育園に屋内遊具を寄贈(「いわぎんSDGs私募債」を活用しての地域貢献活動)するなど、様々な地域貢献活動を行っています。

「弊社の製品は、販売元が大手メーカーのため、社名は表に出ません。しかし、身近なところで使用され、世界中でも使用されているレンズが、地元渋民で研究開発・製造されていることを知っていただき、従業員たちにも誇りに思ってもらいたい。今一緒に働いている若い世代にも、この先の50年間自信をもって社会・世界と取引ができるよう、環境を整えていくことが私の役目ですね」と今後の抱負を語る晃弘さん。

個々の能力や特性に配慮した科学的な人材育成を取り入れ、世界レベルの製品製造を続けていきます。

地域運営の落とし穴②
「中間支援」は、
必要なのか?



当市における「中間支援」組織 ～「いちのせき市民活動センター」誕生秘話とともに～

当センターが事業を開始したのは今から17年前。当時は、「**中間支援※**」という‘NP0を支援するNP0’がメインの時代でした。「NP0法人せんだい・みやぎNP0センター」や同法人が運営する「仙台市市民活動サポートセンター」の取り組みが注目され、仙台モデルを追うように中間支援の取り組みが広がっていた時期です。岩手県も同様で、**岩手県における中間支援のモデル事業として当センターもスタート**しました(当時は「きらめきサポートステーション一関」という名称で、NP0法人レスパイトハウス・ハンズが受託)。一関市が合併した平成17年の開設です(平成23年に藤沢町が加わり現在の一関市)。

開設当初は仙台モデルに学び、「情報コーナー」を作ってみたり、「NP0マネジメント講座」などを開催しました。しかし、仙台モデルに倣おうとしても、当時の当センターは、JR一関駅前にあるビル5階のワンフロアを子育て支援団体と同居する形で、半分は子育て支援スペース。我々は、デスク1台とミーティングテーブルを置くだけで、他の中間支援センターのようなNP0が利用する作業スペースや貸事務所などの拠点機能は持ち合わせていませんでした。

実際のところ、法人格を有する団体は自前の拠点を構えて事業を行っていることが多く、任意団体は地域の公民館(現市民センター)などの公共施設で活動しており、仮に拠点を整備しても利用されることは少なかったはず。また、合併後の一関市は東西で約90kmあり、地理的に考えても、一か所のみいわゆる「NP0支援センター」は、ニーズがなかったように思います。そもそも、地方都市においては、支援対象となるNP0自体が少なく、それも相まって‘NP0の支援施設’と名乗っていながらも、駆け出しの我々にはノウハウもなく……。‘支援する’なんて声を大きくして宣言できる自信はありませんでした(苦笑)。

結果的に、拠点整備をしなかったのが幸いとまでは言いませんが、**拠点施設に縛られず、自らが動いて回る体制にすることができた**のは偶然の賜物です。

さて、開設して3年間は、活動内容を模索しながら「人口12万人(当時)規模のまちに必要な『中間支援』とは何か」をずっと考えていた時期でもあります。中間支援と言えばNP0支援のイメージが強いのですが、上述のように一関ではNP0支援に特化してもニーズは低く、生活基盤となる‘**地域コミュニティ**’の支援をしていく必要性をずっと感じていました。そして平成20年、合併から3年が経過した一関市は、「**協働のまちづくり**」を宣言。この時から一関市の委託(「市民活動推進事業」として同じくNP0法人レスパイトハウス・ハンズが受託し、当センターを開設)になり、**地域協働支援としてNP0と地域コミュニティの支援に本格的に取り組**み始めたのです。

地域コミュニティとNP0は、**地域を支える主体の2者であり両輪**です。「テーマ型」の活動が基本であるNP0の機能だけを強化しても、「地縁型」である地域コミュニティの機能は弱いまま。逆に、**地域コミュニティの機能強化に努めていくと、「地縁型」の中から「テーマ型」の取り組みが生まれ、それがNP0に成長していくことがあるので、双方を支援し、互いの必要性を掛け算**していきたい。その考えは、いまも変わっていません。

少子化、高齢化、人口減少が進み、**地域を支える主体の役割は整理されず、人口が多かった時代のまま**。果たして、そのままでもいいのか?そして、中間支援のあり方も17年前と同じでもいいのか?一関のまちと地域と向き合い、**中間支援という機能をどのように活かしていくのか**を考え続けてきました。最近は、「**地域コミュニティを支援する中間支援機能**」が求められるようになってきています。そのためか、当センターに県内外から相談や問い合わせをいただくことがあるのですが、「地域コミュニティを支援する中間支援があれば‘うまくいく’」という発想は、**落とし穴にはまるだけなので**ご注意ください。

むしろ、**中間支援組織が無くても、その機能を既存の主体が果たすのであれば、それはそれでいい**と我々は思っています。しかし地域の現実、**地域を支える主体はあれど、‘隙間’が存在し、その‘隙間の処理’を見過ごしている状態**。既存の主体が担えれば良いのですが、業務量の都合もさることながら、**その‘隙間’に存在する課題の難解さ**は、なかなかのものです。ゆえに中間支援機能を担う組織が求められ続けるのでしょう。



最近でもよく見る光景ですが、平成24年の当センター長小野寺です。当時も今もやっていることは変わりませんね(笑)

※中間支援組織：明確な定義はないものの、内閣府が平成13年に行った中間支援組織へのアンケート調査においては、中間支援組織を「多元社会における共生と協働という目標に向かって、地域社会とNP0の変化やニーズを把握し、人材、資金、情報などの資源提供者とNP0の仲立ちをしたり、また、広義の意味では各種サービスの需要と供給をコーディネートする組織」と定義している。

「講(講中)」「頼母子(≒無尽)」を整理してみた

当地域で行われている主要な講中

古峯山講中	栃木県鹿沼市草久古峯ヶ原「古峯神社(ふるみねじんじや)」	火防の神(日本武尊)をお祀りしているため 大火のあった地域で講中を組織する ケースが多い。代参講中組織は全国に約2万あるとも。
三峯山(神社)講中	埼玉県秩父市三峰「三峯神社」	御眷属が オオカミ(オイヌサマ) であり、山里では 猪鹿よけ 、町や村では 火防・盗賊よけ として信じられる。
小牛田山講中(≒山の神講)	宮城県遠田郡美里町「山神社(やまのかみしゃ)」	山中安全を願う 山林業・鉱山 など男性を主とした講(農民にとっては 田の神)と、 安産・子授け・子育て を願う「 婦人講 」の二種類に分けられる。
伊勢講中(天照大神)	三重県伊勢市「神宮(伊勢神宮)」	皇祖神であり、 日本人の総氏神である天照大御神 がお祀りされ、江戸時代には庶民の間で「 お伊勢参り 」が 大ブーム に。‘一生に一度は伊勢へ’という憧れから、代参講中を組織して参拝に行く地域が多い。
出羽三山講中(月山、羽黒山、湯殿山)	山形県鶴岡市羽黒町「出羽三山神社」※羽黒山頂に三山の神々を合祭	「出羽三山」は 月山、羽黒山、湯殿山 の三つの山の総称で、日本古来の自然崇拜の 山岳信仰 に、仏教・道教・儒教などが習合した「 修験道 」の山。
その他	雷神、秋葉山講中、馬頭観音講中、志和稻荷講、恵比寿講、金華山講、鹿島講中、等	

当地域においては、ヒアリング・文献調査あわせて少なくとも**50種類以上の講中**があり、うち上記にあげたような講中は小字レベルから**各地で複数存在**するため、**組織数は優に100を超える**と推測。代参目的の講中も多いですが、**年2回程度の祭事と「御精進(≒直会)」を行うための講中**も多く存在していました。近年の代参講中は、**旅行会社からツアー商品**がご案内されることも多かったようですが、**会員の高齢化にコロナ禍が相まって、「郵送祈祷」への切り替え**が進んでいました。



- 1) 2) 蔵美地区の某講中組織の「古峯神社講中代参簿」。大正12年分から綴られている。
- 3) 蔵美3区住民で組織する「古峯山滝ノ上講中」で古峯神社に参拝旅行に行った際の集合写真。昭和26年に結成し、当初は代表5人が代参していたが、近年は会員全員に参加を募るようになり、毎年2月の農閑期に、古峯神社の大祭に合わせて行く。コロナ禍に入ってから郵送祈祷に切り替えているが、講中組織は存続している。
- 4) 室根13区自治会内の第6部落住民で組織する「萩倉馬場講中」。コロナ禍前は代参と御精進を行っていたが、現在は郵送。代表者が会館で「古峯神社」の掛け軸に手を合わせる。
- 5) 講中組織を結成した際には、組織の永続や参拝を記念して石碑を建立することが多く、表面には当該講中が信仰する神社等の名称と建立年を、裏面には講中組織メンバーの氏名等が彫られている(写真は蔵美地区)。

当地域で行われていた主要な頼母子(≒無尽)

講中と異なり、「**やっていたがやめた**」という声が多数。やっけていても、近年は相互扶助の意味合いよりも、親睦や交流のためのものしか存在しないようです。また、町史等の文献を見ると、そもそもは「**たのまれ無尽**」として、**負債整理や火災水害借財等の更生資金を調達すべく、親類縁者や隣近所の人々に依頼して結成**することも多かったようです。

萱(茅)・屋根無尽	各自で萱を集めるのは大変であることから、メンバーで 萱や縄を持ち寄り 、春季一回(春秋のことも)古い屋根の家から順次萱替えしていった。
量無尽	量の表替え を行うには一度にまとまった金額が必要になることから、一定金額ずつ拠出し合い、 順番に表替え を行った(〜昭和40年代まで?)
米無尽 もち米頼母子	米を一定量ずつ出しあい 、当たりの人がもらうパターン(もらったお米は 現金化 すること)と、 祝い事のためにもち米を貯めておき 、あたりの人が使えるようにするというパターンも(祝い事のある人を優先)。
調度無尽	お膳、量、ミシン等の調度品 を購入するためのもので、当たりの人は まとまった現金 を入手できる。 水害等からの復旧 にも使用したとか。
その他	酒のみ無尽、車検無尽、同級会無尽、旅行無尽 等

※「頼母子」は目的があって結成するので、一巡したら目的達成で解散すること多い。

「たのまれ無尽」の場合、1座目は頼んだ側(≒金品に困っている人)に当たりがいき、2座目以降はクジ引きや入札で当たりを決めたのだとか(一度当たった人は対象外で、返済のみ)。現金等が必要な人にとっては手軽な金品調達方法であり、余裕金所持者にとっては有利な貯蓄方法(利息つきの仕組みもある)だったようです。

地域の「気になること」をセンタースタッフが独自に調査！

ミッション73 暮らし調査 ファイルNo.20 「講」「頼母子」 たのもし

センターの自由研究

地域で話を聞いていると「昔は『〇〇講』の集まりがあったんだけど……」などという話題が出ることが。宗教的な意味合いに聞こえることもあれば、交流機会のような意味合いの時も。そこで市内各地でヒアリングを行ってみると、それらは大きく「講(講中)」と「頼母子(≒無尽)」に分けられることが判明。しかも「頼母子」や「無尽」になると、金融的な位置づけにも広がるのです……！庶民の暮らしとの関係性を整理しました。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

信仰↓相互扶助↓営利↓交流

「講(講中)」「頼母子」「無尽」いずれも当地域独特のものではなく、名称は多少違えど、全国的に行われていたものです。『日本史広辞典』にはそれぞれの性格が次のように記されています。

【講】 本来は經典を講説する僧衆の集會のこと。(中略)九世紀に入ると法華經の誦誦が流行して法華八講が広まり、一般に法會に講の名称をつけるようになった。やがて(中略)さまざまな信仰集團にも用いられた。

【頼母子】 頼子・憑子・憑支とも。中世に始まる金融方式。参加者は一つの講を結成し、毎回の會合で懸銭を出しあつて、抽選または入札で参加者の一人に配当する。(中略)本来は村落などの相互扶助の目的で發達したもので、寺社の修繕費用の調達にも利用されたが、やがて営利事業として行う事例が増加する。(中略)近代以降は、無尽の呼称が支配的になる。

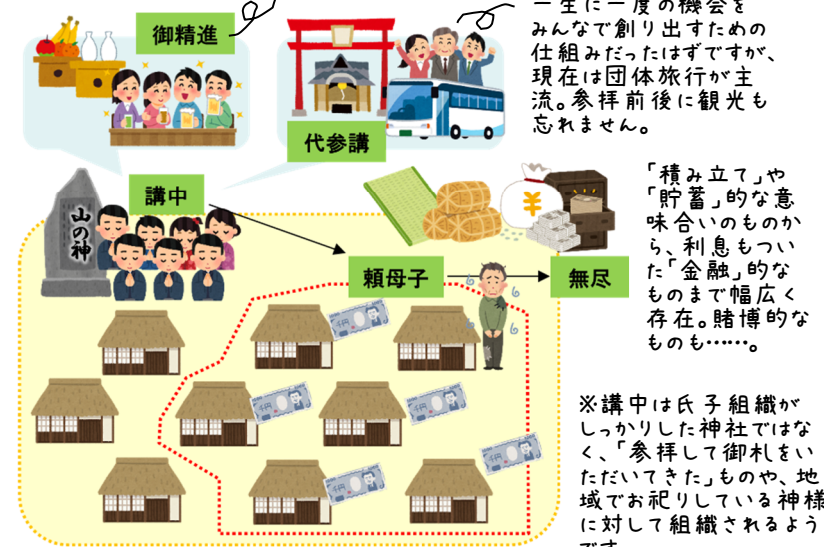
【無尽】 中世く近代を通じて發達した講組織による相互金融。(中略)中世後半に入つて頼母子と混用されるようになり、講の會合の際の共同飲食がうむ仲間意識に支えられた、相互扶助的な庶民金融として普及する。その一方で営利的な無尽も發達し、近世には射倖性(ギャンブル性)を高めたものも現れて、一部の藩では無尽を禁止した。近代には会社組織の營業無尽が盛んに行われ、大正初期の段階で数百の無尽会社が確認される。

寺院等に集まつて宗教教育(講義)を行っていた「講」が、時代とともに宗教色が薄れ、**地縁的な集まり**全般を指すようになっていき、その「講」の中から、**相互扶助の性質を持つ「頼母子」や、金融手段としての「無尽」**が發達していったようです。

当地域においては、「〇〇講中」という組織名で、遠方の神社等への「代参(遠方の名山靈場に代表者を派遣する参詣方法)」を行なったり、山の神等の祭事にあわせた「御精進(≒直会)」が行われることが多く、そのた

集落における例

「御精進」という名の「共同飲食」の機会であることが多く、交流や情報交換の場としても機能。女性だけの御精進も多く、貴重な息抜き場だった可能性も。



めに講中メンバーから会費などを徴収するケースが多く見受けられました(ヒアリング及び町史等より)。そのような仕組みの派生で、頼母子や無尽が運営されるようになったという流れのようですが、町史等の文献によると、「頼母子」は藩政時代から行われ、明治時代にも盛んに結成されていたとか。「昭和6年頃の財界不況」により、一時下火になったようですが、終戦後は物資の欠乏から、再び結成し、物資の購入等に役立てたようです。

「講中」に関しては、藩政時代以前から行われていたはずですが、「代参講中」の石碑建立は明治期以降が多く、当地域住民がいつ頃から講中を行っていたのかという答えには辿り着けませんでした。